

賑やかな蝉の声

私達の子供の頃、田舎は何処に行っても、蝉の声が一日中途絶えることなく聞えたものだ。昼寝して居ても、蝉声の音楽入りだ。ミンミンミン、ミンミンミン、ジー。木にも留まって暑い盛りには、短い夏を謳歌する如く啼く。夕方になると、ひぐらしが啼く。カナ・カナ・カナ。カナ甲高い声で啼く、二〜三百米位離れていても聞える。子供達はカナ・カナ蝉と言っていた。ミンミン蝉（油蝉）より小さい蝉だそうだが私は見た事が無かった。

小さいとき蝉捕りをやった。長い竹の先に網袋を付け、啼いている蝉に近づき、そつと蝉に被せる。うまく行かず逃げられる事が多い。たまにオシッコを掛けられる事もある。

捕っても何にもならないが、小さい籠に入れ、喜んでいた。近年田舎に行っても蝉の音が聞けない。どうしたのだろうか。幼き時代の夏の風物詩を思い出す。

よく柿木にハンモックを釣り、少年倶楽部という雑誌を読んでみると、眠くなり寝てしまう。少年倶楽部は、毎月小遣いを貯め買って読んだ。

少年探偵団。怪人二十面相。浮ぶ飛行島。等々、連載小説を夢中になって読んだものだ。青年以降はあまり本は読まなくなつた。続けて多く読んでいけば、ましな随筆書けたものをと悔やまれる。若い頃の記憶があつても、歳を取つてからは曖昧だ。

若葉の下涼しい柿の木に吊つた、ハンモックに横になり、蝉の声を聞きながら、少年雑誌を読み耽り、眠つてしまつたあの頃を思い出す。